

## ■学習のポイント ★★★★★

### ◆001◆骨端症

骨端症は骨端部に骨壊死が生じる疾患の総称です。疾患名、部位、好発年齢などを覚えましょう！

疾患名	部位	好発年齢など
Pertes（ペルテス）病	大腿骨頭	6 歳前後の男児
第 1Köhler（ケーラー）病	足の舟状骨	10 歳前後の男児
Sever（セバー）病	踵骨	
Osgood-Schlatter（オスグッド・シュラッター）病	脛骨結節（脛骨粗面）	
第 2Köhler（ケーラー）病（フライバーグ病）	第 2 中足骨頭	10 歳前後の <u>女児</u>
Kienböck（キーンベック）病	月状骨	<u>成人男性</u>

問題	001	41PM089 改題
<p>下肢の骨端症と好発部位との組合せで正しいのはどれか。2 つ選べ。</p> <p>1. 第 1 ケーラー病 — 踵 骨</p> <p>2. 第 2 ケーラー病 — 舟状骨</p> <p>3. セバー病 — 中足骨</p> <p>4. オスグッド・シュラッター病 — 脛骨結節</p> <p>5. ペルテス病 — 大腿骨骨頭</p>		
		答 4, 5

問題	002	48PM077
<p>骨端症と発生部位についての組合せで正しいのはどれか。</p> <p>1. Osgood-Schlatter 病 - 大腿骨頭</p> <p>2. 第 1Köhler 病 - 踵 骨</p> <p>3. Kienböck 病 - 月状骨</p> <p>4. Pertes 病 - 脛骨粗面</p> <p>5. Sever 病 - 足舟状骨</p>		
		答 3

問題	003	44PM075
<p>女児に多い骨端症の罹患部位はどれか。</p> <p>1. 大腿骨骨頭</p> <p>2. 脛骨粗面</p> <p>3. 踵 骨</p> <p>4. 足の舟状骨</p> <p>5. 第 2 中足骨</p>		
		答 5

解法のポイント
<p>10 歳前後の女児に好発する第 2 ケーラー病(フライバーグ病) は、<u>第 2 中足骨頭</u>の無腐性壊死により関節変形をきたす原因不明の疾患である。</p>

問題	004	42PM088
<p>小児期の疾患でないのはどれか。</p> <p>1. キーンベック病</p> <p>2. ショイエルマン病</p> <p>3. セバー病</p> <p>4. ペルテス病</p> <p>5. 第 1 ケーラー病</p>		
		答 1

解法のポイント
<p>Kienböck（キーンベック）病は<u>月状骨</u>への血流障害により生じる<u>無腐性壊死（骨壊死）</u>であり、<u>月状骨軟化症</u>ともいわれる。大工など手関節を多用する職業の <u>成人男性</u>（20～40 歳）に多い。</p>

問題	005	45PM087
Osgood-Schlatter 病で正しいのはどれか。2つ選べ。		
1. 運動時痛がある。		
2. 女児の罹患率が高い。		
3. 大腿骨顆部に圧痛がある。		
4. 大腿四頭筋筋膜に部分断裂を生じる。		
5. 骨端線の閉鎖以降に症状は消失しやすい。		
答	1, 5	

解法のポイント
<b>Osgood-Schlatter 病</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 10歳前後の男児に好発する膝蓋靭帯付着部、脛骨結節の骨端症である。</li> <li>➤ 脛骨結節（脛骨粗面）部に膨隆、圧痛、運動時痛が認められる。</li> <li>➤ 骨端線の閉鎖以降に症状が消失しやすい。</li> <li>➤ 大腿四頭筋の反復収縮による膝蓋腱脛骨付着部の剥離損傷を生じることがある。</li> </ul>

問題	006	43PM082
幼児期に好発する骨端症はどれか。2つ選べ。		
1. Perthes（ペルテス）病		
2. Osgood（オスグッド）病		
3. Kienböck（キーンベック）病		
4. 第1Köhler（ケーラー）病		
5. Scheuermann（シヨイエルマン）病		
答	1, 4	

解法のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Perthes 病は6歳前後の男児にみられる大腿骨頭の無腐性壊死である。</li> <li>➤ 第1Köhler 病は10歳前後の男子にみられる舟状骨の無腐性壊死である。</li> <li>➤ Scheuermann 病は中下位胸椎に発生し、成長期に進行する原因不明の後彎症である。</li> </ul>

問題	007	49PM086
女児に多いのはどれか。		
1. Perthes 病		
2. 先天性内反足		
3. 大腿骨頭すべり症		
4. Osgood-Schlatter 病		
5. 発育性股関節形成不全		
答	5	

解法のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 発育性股関節形成不全は<b>女児</b>に多い。</li> <li>➤ 先天性内反足は<b>男児</b>に多い。</li> <li>➤ 大腿骨頭すべり症は<b>思春期の男子</b>に多い。</li> </ul>

■学習のポイント ★★★

◆002◆膝関節の症状

膝関節の主な症状	
膝くずれ giving-way	反復性膝蓋骨脱臼、前十字靭帯損傷、半月板損傷、関節内遊離体、棚障害、大腿四頭筋筋力低下などにより、立位や歩行時に突然膝折れが生じる現象。
弾発現象	半月板、靭帯、筋腱などの異常により関節運動が制限され、それ以上の運動を強制すると急に跳ねるように制限が解除される現象（弾発膝）。
ロッキング	関節構成体の一部が嵌頓 <sup>注)</sup> し、関節運動が制限される現象（膝が屈曲位のまま伸展できないか、伸展位のまま曲がらなくなる）。嵌頓物が除去されれば関節運動は正常化する。離断性骨軟骨炎、半月板損傷（膝関節の完全伸展が困難となる）でみられる。  <small>注) 嵌頓：脱出しもとに戻らなくなった状態のこと。</small>
キャッチング	完全にロックされているわけではないが、引っ掛かりを感じる。

問題	001	45PM085
膝関節疾患の症状とその説明との組合せで誤っているのはどれか。		
1. キャッチング——運動時に膝に引っかかりを感じる。		
2. 膝くずれ——荷重時に膝がガクッと折れそうになる。		
3. ロッキング——膝が一定の角度で屈伸不能になる。		
4. 伸展不全——自動的な完全伸展が不能となる。		
5. 弾発現象——膝の中でもものが動く感じがする。		
		答 5

問題	002	43PM078
膝くずれ (giving-way) の原因となりやすいのはどれか。2つ選べ。		
1. 腸脛靭帯炎		
2. 反復性膝蓋骨脱臼		
3. 前十字靭帯損傷		
4. 内側側副靭帯損傷		
5. 有痛性分裂膝蓋骨		
		答 2, 3

問題	003	42PM076
膝関節のロッキング現象の原因となりやすいのはどれか。2つ選べ。		
1. 離断性骨軟骨炎		
2. 半月板損傷		
3. 前十字靭帯損傷		
4. 膝蓋大腿関節障害		
5. 内側側副靭帯損傷		
		答 1, 2

解法のポイント
離断性骨軟骨炎は肘関節、股関節、膝関節に好発する骨端炎で、15～20歳の男性に好発する。膝関節では大腿骨窩間窩の内側面に好発し、疼痛や運動障害に加え、膝関節のロッキングが出現する。

## ■学習のポイント ★★★★★

### ◆003◆主な症候群

絞扼性症候群と障害される末梢神経	
手根管症候群	正中神経
円回内筋症候群	正中神経
肘部管症候群	尺骨神経
ギヨン管症候群	尺骨神経
梨状筋症候群	坐骨神経
足根管症候群	脛骨神経

問題	001	41PM082
誤っているのはどれか。		
1. 円回内筋症候群 — 橈骨神経		
2. 手根管症候群 — 正中神経		
3. 足根管症候群 — 脛骨神経		
4. 梨状筋症候群 — 坐骨神経		
5. ギヨン管症候群 — 尺骨神経		
答		1

問題	002	44PM081
肘部管症候群で筋力低下をきたすのはどれか。		
1. 短母指外転筋		
2. 長母指伸筋		
3. 長母指屈筋		
4. 母指対立筋		
5. 母指内転筋		
答		5

### 解法のポイント

肘部管症候群は尺骨神経の絞扼性神経障害であるため、尺骨神経に支配される母指内転筋に筋力低下が生じる。

短母指外転筋・長母指屈筋・母指対立筋は正中神経に支配され、長母指伸筋は橈骨神経支配されるため、筋力低下は生じない。

問題	003	46AM090
肘部管症候群の症状で正しいのはどれか。2つ選べ。		
1. 猿手変形		
2. 鉤爪手変形		
3. ボタン穴変形		
4. Tinel 徴候		
5. 前腕近位尺側の感覚障害		
答		2, 4

### 解法のポイント

- ▶ 肘部管症候群では 尺骨神経 が障害され、鉤爪手変形と Tinel 徴候がみられる。
- ▶ 猿手変形は正中神経麻痺でみられる。
- ▶ ボタン穴変形は関節リウマチでみられる。
- ▶ 感覚障害は第 4 指尺側 1/2 と第 5 指、手背尺側にみられる。

問題	004	45PM092
<p>胸郭出口症候群の成因に関係するのはどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胸 骨</li> <li>2. 鎖 骨</li> <li>3. 上腕骨</li> <li>4. 第 1 肋骨</li> <li>5. 第 1 胸椎</li> </ol>		
		答 2, 4

解法のポイント
<p>胸郭出口症候群では、鎖骨と第 1 肋骨間、前斜角筋部、小胸筋部、頸筋部で神経・血管束が圧迫される。</p>

問題	005	44PM078
<p>コンパートメント症候群の症状で頻度が低いのはどれか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疼 痛</li> <li>2. 発 赤</li> <li>3. 腫 張</li> <li>4. 運動麻痺</li> <li>5. 脈拍触知不能</li> </ol>		
		答 2

解法のポイント
<p>コンパートメント症候群は、四肢の骨と筋膜によって形成される区画（コンパートメント）の内圧上昇によって血行障害や神経麻痺が生じ、筋の機能不全や筋壊死が生じる。</p> <p>コンパートメント症候群の症状で頻度が低いのは、「発赤」である。</p>

問題	006	41PM078
<p>神経病性関節症（シャルコー関節）で誤っているのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節痛覚低下</li> <li>2. 滑膜増殖</li> <li>3. 関節液貯留</li> <li>4. 軟骨増生</li> <li>5. 骨破壊</li> </ol>		
		答 4

解法のポイント
<p>神経病性関節症は、無痛性、慢性進行性の関節症であり、骨や関節の破壊が起こる。軟骨の壊死や破壊はみられるが、増生はみられない。</p>

## ■学習のポイント ★★

### ◆004◆熱傷

熱傷深度（皮膚のどの層まで損傷しているか）は以下のように分類される。

深度	傷害組織	外見	症状	治癒期間	瘢痕
I 度	表皮・角質層まで	発赤、充血	痛み、熱感	数日	残らない
浅達性 II 度	表皮・有棘層、基底層まで	水疱、発赤、腫れ、湿潤	強い痛み、灼熱感、知覚鈍麻	約 10 日間	残りにくい
深達性 II 度	真皮・乳頭層、乳頭下層まで	浅達性 II 度とほぼ同じだが、やや白くなる。	浅達性 II 度とほぼ同じだが、知覚鈍麻が著しい	2 週以上	残りやすい
III 度	真皮全層、皮下組織	壊死、炭化、乾燥、白い	無痛、知覚なし	1 ヶ月以上	残る

### 熱傷面積の計算

熱傷面積には I 度を含めず、II、III 度の熱傷で計算する。単位は %BSA (body surface area)。以下の方法がある。

方法	対象	内容
9 の法則	成人	頭部・左上肢・右上肢をそれぞれ 9%、体幹前面・後面・左下肢・右下肢をそれぞれ 18%、陰部を 1% で計算する。
5 の法則	幼児	頭部・体幹前面・後面をそれぞれ 20%、四肢をそれぞれ 10% で計算する。
	小児	頭部を 15%、左上肢・右上肢をそれぞれ 10%、体幹前面を 20%、体幹後面・左下肢・右下肢をそれぞれ 15% で計算する。
Lund & Browder の法則	0 歳～成人	精密な熱傷面積の計測方法
手掌法	成人	手掌の面積を全身の 1% として計算する。

### 熱傷指数

熱傷指数は以下の式で、II 度と III 度の面積から算出する（I 度は含まない）。

$$\text{熱傷指数} = 1/2 \times \text{II 度熱傷面積 (\%)} + \text{III 度熱傷面積 (\%)}$$

問題	001	45AM089	解法のポイント
<p>熱傷で正しいのはどれか。2つ選べ。</p> <p>1. Ⅲ度熱傷は真皮層までの損傷をいう。</p> <p>2. 四肢関節部位は特殊部位と呼ばれる。</p> <p>3. 瘢痕形成の予防として圧迫と伸張とが用いられる。</p> <p>4. 手の熱傷では手内筋プラスポジションとなりやすい。</p> <p>5. 小児の熱傷面積を算出する場合は 9 の法則を用いる。</p>			<p>×1 Ⅲ度熱傷は <u>皮下組織</u> までの損傷をいう。</p> <p>○2 四肢関節部位は関節可動域制限、皮膚知覚障害、創・潰瘍形成を起こしやすく、完治しにくいため特殊部位と呼ばれる。</p> <p>○3 瘢痕形成の予防として圧迫と伸張とが用いられる。</p> <p>×4 手の熱傷では手内筋プラスポジションとなりやすいとはいえない。</p> <p>×5 小児の熱傷面積を算出する場合は <u>5 の法則</u> を用いる。</p>
<p>答 2, 3</p>			
問題	002	48PM086	解法のポイント
<p>熱傷について正しいのはどれか。</p> <p>1. I 度では皮膚の発赤をきたす。</p> <p>2. 浅達性Ⅱ度では肥厚性瘢痕を残す。</p> <p>3. Ⅲ度では強い痛みがある。</p> <p>4. 小児の熱傷面積の概算には 9 の法則が用いられる。</p> <p>5. 熱傷指数は I 度とⅡ度の面積から算出する。</p>			<p>○1 I 度では皮膚の発赤が認められる。</p> <p>×2 浅達性Ⅱ度では肥厚性瘢痕を残さない。</p> <p>×3 Ⅲ度では神経損傷がみられるため無痛性である。</p> <p>×4 小児の熱傷面積の概算には <u>5 の法則</u> が用いられる。</p> <p>×5 熱傷指数は <u>Ⅱ度とⅢ度</u> の面積から算出する。</p>
<p>答 1</p>			

## ■学習のポイント ★

### ◆005◆変形性関節症

#### 変形性関節症

- 中高年 に好発する。
- 変形性膝関節症は明らかな原因のない一次性が多いが、変形股関節症は二次性が多い（臼蓋形成不全や先天性股関節脱臼からの続発例が約 80～85%）。
- 変形性膝関節症は変形性股関節症よりも頻度が 高い。
- 加齢に伴う関節軟骨の退行変性が先行し、二次的に滑膜炎を生じる。
- X 線写真で 関節裂隙の狭小化 が認められる。
- 発症要因として遺伝的素因が認められる。

問題	001	50AM089
変形性関節症について正しいのはどれか。		
1. 若年者に好発する。		
2. 滑膜炎から軟骨の変性に至る。		
3. 股関節では二次性股関節症が多い。		
4. 膝関節では女性に比べ男性の有病率が高い。		
5. 発症要因として遺伝的素因は認められない。		
答	3	



## ■学習のポイント ★★★★★

### ◆006◆変形性膝関節症

#### 変形性膝関節症

- 中年期以降の肥満女性に好発する。
- 内反型（内側型）が多い。
- 進行すると内反変形が強くなり，脛骨が大腿に対して 外旋する。
- 動き始めの疼痛が特徴である。
- 歩行時よりも起立動作時の痛みが強い。
- 大腿四頭筋の萎縮を認める。
- 膝周囲筋の筋力強化により症状が改善する。
- 内側型には外側が高い楔状足底板が用いられる。

問題	001	43PM081
変形性膝関節症で誤っているのはどれか。		
1. 中高年の女性に多い。		
2. 日本人では内反型が多い。		
3. 動き始めの疼痛が特徴である。		
4. 明らかな原因のない一次性が多い。		
5. 進行すると脛骨が大腿に対して内旋変形する。		
		答 5

問題	002	46AM086
変形性膝関節症で正しいのはどれか。2つ選べ。		
1. 二次性が多い。		
2. 女性よりも男性に好発する。		
3. 外反変形を生じやすい。		
4. 運動開始時に疼痛がある。		
5. 大腿四頭筋の萎縮を認める。		
		答 4, 5

問題	003	48AM088
変形性膝関節症で正しいのはどれか。		
1. 外側型が多い。		
2. 歩き始めは痛くない。		
3. 女性よりも男性に多い。		
4. 膝周囲筋の筋力強化は症状を改善させる。		
5. 内側型には内側が高い楔状足底板が用いられる。		
		答 4

問題	004	42PM067
変形性膝関節症で正しいのはどれか。2つ選べ。		
1. 中年期以降の肥満女性に好発する。		
2. 頻度は変形性股関節症より低い。		
3. 起立動作時よりも歩行時に痛みが強い。		
4. 進行すると膝外反変形を生じやすい。		
5. エックス線写真で関節裂隙の狭小化がみられる。		
		答 1, 5

■学習のポイント ★★★

◆007◆骨折

骨折

- Colles 骨折、上腕骨近位端骨折は高齢者に多い。
- 脂肪塞栓は大腿骨骨折後に起こりやすい。
- 回旋変形は自然矯正されにくい。
- 癌の骨転移では病的骨折が生じやすい。
- 脊椎圧迫骨折の好発部位は第 12 胸椎と第 1 腰椎である。

骨折の治癒過程

骨折治癒過程は、①炎症期、②修復期、③リモデリング期（再造形期、骨改変期）の 3 期に分けられる。

①炎症期	血腫が形成され、炎症反応が始まる。
②修復期	血腫が肉芽組織に置換され、肉芽組織にミネラルが沈着し、線維骨が形成される。
③リモデリング期	骨の吸収と新生を繰り返し、仮骨が力学的要請に応じてリモデリングしていく。

血腫形成⇒炎症反応⇒仮骨形成⇒骨改変

問題	001	44PM077
骨折について正しいのはどれか。2 つ選べ。		
1. 回旋変形は自然矯正されやすい。		
2. 小児では Colles 骨折の頻度が高い。		
3. 上腕骨近位端骨折は高齢者に多い。		
4. 癌の骨転移では疲労骨折が生じやすい。		
5. 脂肪塞栓は大腿骨骨折後に起こりやすい。		
答	3, 5	

問題	002	41PM079
骨折の治癒機転で誤っているのはどれか。		
1. 炎症反応が起こる。		
2. 血腫を形成する。		
3. 破骨細胞が増殖する。		
4. 仮骨が形成される。		
5. 骨改変を生じる。		
答	3	

問題	003	42PM075
骨折治癒に影響する因子として適切でないのはどれか。		
1. 低蛋白血症		
2. 高尿酸血症		
3. 転位の程度		
4. 局所の感染		
5. 血管損傷の合併		
答	2	

解法のポイント

骨折の治癒に影響する因子

- 低蛋白血症
- 転位の程度
- 局所の感染
- 血管損傷の合併

## ■学習のポイント ★★★

### ◆008◆骨折の名称と部位

骨折名	部位	説明
Colles (コーレス) 骨折	橈骨遠位端	遠位骨片が背側へ転位する。
Smith (スミス) 骨折	橈骨遠位端	遠位骨片が掌側へ転位する。
Barton (バートン) 骨折	橈骨遠位端	関節内骨折。遠位骨片と手根骨が背側に転位しているものを <b>背側バートン骨折</b> 、掌側に転位しているものを <b>掌側バートン骨折</b> という。
Monteggia (モンテギア) 骨折	尺骨骨折	橈骨頭脱臼を伴う。
Bennett (ベネット) 骨折	第 1 中手骨近位端	母指 CM 関節脱臼骨折
Malgaigne (マルゲーニュ) 骨折	骨 盤	前方骨盤輪骨折と後方骨盤輪骨折が合併した骨折で垂直方向に転位しているものをいう。
Cotton (コットン) 骨折	三果部骨折	内・外果の骨折と、脛骨関節面の後縁または前縁の骨折を合併したもの
Jefferson (ジェファーソン) 骨折	環椎破裂骨折	環椎の前弓と後弓の破裂骨折

問題	001	49PM087
骨折の名称と部位の組合せで正しいのはどれか。		
1. Barton 骨折 — 尺骨遠位端		
2. Bennett 骨折 — 第 2 中手骨基部		
3. Colles 骨折 — 上腕骨骨幹部		
4. Monteggia 骨折 — 橈骨骨幹部		
5. Smith 骨折 — 橈骨遠位端		
		答 5

問題	002	50PM090
骨折の名称と部位の組合せで正しいのはどれか。		
1. Monteggia 骨折 — 上腕骨		
2. Cotton 骨折 — 橈 骨		
3. Malgaigne 骨折 — 骨 盤		
4. Jefferson 骨折 — 大腿骨		
5. Bennett 骨折 — 脛 骨		
		答 3

問題	003	47AM087
成人と比べ、小児の骨折で多いのはどれか。2 つ選べ。		
1. 偽関節		
2. 過成長		
3. 若木骨折		
4. 関節拘縮		
5. 角状変形の遺残		
		答 2, 3

### 解法のポイント

#### 小児骨折の特徴

- 骨が柔軟であるため **若木骨折** が起こる。
- 仮骨形成が盛んな場合に **骨の過成長** がみられる。
- **上腕骨顆上骨折** が多い

問題	004	48PM087
小児に多い骨折はどれか		
1. 上腕骨近位端骨折		
2. 上腕骨顆上骨折		
3. 腰椎圧迫骨折		
4. 大腿骨頸部骨折		
5. 脛骨骨幹部骨折		
答	2	

解法のポイント
上腕骨顆上骨折は小児に多い。

問題	005	41PM080
骨折後に発生する合併症で誤っているのはどれか。		
1. 静脈血栓症		
2. 阻血性拘縮（フォルクマン拘縮）		
3. 骨化性筋炎		
4. 無腐性骨壊死		
5. デュプイトラン拘縮		
答	5	

解法のポイント					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>骨折後の合併症</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>➤ 静脈血栓症</td> </tr> <tr> <td>➤ 阻血性拘縮（フォルクマン拘縮）</td> </tr> <tr> <td>➤ 骨化性筋炎</td> </tr> <tr> <td>➤ 無腐性骨壊死</td> </tr> </tbody> </table>	骨折後の合併症	➤ 静脈血栓症	➤ 阻血性拘縮（フォルクマン拘縮）	➤ 骨化性筋炎	➤ 無腐性骨壊死
骨折後の合併症					
➤ 静脈血栓症					
➤ 阻血性拘縮（フォルクマン拘縮）					
➤ 骨化性筋炎					
➤ 無腐性骨壊死					
注) デュプイトラン拘縮は手掌の皮下にある腱膜が硬くなり、第4指、5指が屈曲する拘縮である。原因不明であるが、アルコール過飲や糖尿病などに多くみられる。					

問題	006	45PM086
骨壊死を起こしやすいのはどれか。		
1. 上腕骨外科頸骨折		
2. 肘頭骨折		
3. 中手骨骨折		
4. 大腿骨頸部内側骨折		
5. 踵骨骨折		
答	4	

解法のポイント						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>骨壊死を合併しやすい骨折・脱臼</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>➤ <b>大腿骨頸部内側骨折</b></td> </tr> <tr> <td>➤ 距骨骨折</td> </tr> <tr> <td>➤ 手の舟状骨骨折</td> </tr> <tr> <td>➤ 脛骨下部骨折</td> </tr> <tr> <td>➤ 距骨頸部骨折</td> </tr> </tbody> </table>	骨壊死を合併しやすい骨折・脱臼	➤ <b>大腿骨頸部内側骨折</b>	➤ 距骨骨折	➤ 手の舟状骨骨折	➤ 脛骨下部骨折	➤ 距骨頸部骨折
骨壊死を合併しやすい骨折・脱臼						
➤ <b>大腿骨頸部内側骨折</b>						
➤ 距骨骨折						
➤ 手の舟状骨骨折						
➤ 脛骨下部骨折						
➤ 距骨頸部骨折						

問題	007	42PM077
骨壊死を合併しやすいのはどれか。2つ選べ。		
1. 鎖骨骨折		
2. 上腕骨外科頸骨折		
3. 大腿骨頸部内側骨折		
4. 膝蓋骨骨折		
5. 距骨頸部骨折		
答	3, 5	

解法のポイント
大腿骨頸部内側骨折および距骨頸部骨折は骨壊死を合併しやすい。

問題	008	43PM083
骨折，脱臼と合併症の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。		
1. 肩関節前方脱臼——筋皮神経麻痺		
2. 上腕骨顆上骨折——正中神経麻痺		
3. 股関節後方脱臼——坐骨神経麻痺		
4. 大腿骨骨折——大腿神経麻痺		
5. 脛骨骨折——脛骨神経麻痺		
答	2, 3	

解法のポイント														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>骨折・脱臼</th> <th>合併しやすい神経麻痺</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上腕骨顆上骨折</td> <td>正中神経麻痺（橈骨神経麻痺）</td> </tr> <tr> <td>上腕骨骨幹部骨折</td> <td>橈骨神経麻痺</td> </tr> <tr> <td>橈骨遠位端骨折</td> <td>正中神経麻痺</td> </tr> <tr> <td>腓骨頭骨折</td> <td>深腓骨神経麻痺</td> </tr> <tr> <td>肩関節前方脱臼</td> <td>腋窩神経麻痺</td> </tr> <tr> <td>股関節後方脱臼</td> <td>坐骨神経麻痺</td> </tr> </tbody> </table>	骨折・脱臼	合併しやすい神経麻痺	上腕骨顆上骨折	正中神経麻痺（橈骨神経麻痺）	上腕骨骨幹部骨折	橈骨神経麻痺	橈骨遠位端骨折	正中神経麻痺	腓骨頭骨折	深腓骨神経麻痺	肩関節前方脱臼	腋窩神経麻痺	股関節後方脱臼	坐骨神経麻痺
骨折・脱臼	合併しやすい神経麻痺													
上腕骨顆上骨折	正中神経麻痺（橈骨神経麻痺）													
上腕骨骨幹部骨折	橈骨神経麻痺													
橈骨遠位端骨折	正中神経麻痺													
腓骨頭骨折	深腓骨神経麻痺													
肩関節前方脱臼	腋窩神経麻痺													
股関節後方脱臼	坐骨神経麻痺													

問題	009	42PM078
骨折、脱臼に合併しやすい障害の組合せで誤っているのはどれか。		
1. 肩関節前方脱臼 — 腋窩神経麻痺		
2. 腓骨頭骨折 — 深腓骨神経麻痺		
3. 上腕骨顆上骨折 — 正中神経麻痺		
4. 股関節後方脱臼 — 坐骨神経麻痺		
5. 大腿骨骨幹部骨折 — 大腿神経麻痺		
答	5	

問題	010	45AM086
骨折と合併しやすい神経麻痺との組合せで正しいのはどれか。		
1. 上腕骨骨幹部骨折 — 腋窩神経麻痺		
2. 上腕骨顆上骨折 — 正中神経麻痺		
3. 橈骨遠位端骨折 — 橈骨神経麻痺		
4. 大腿骨骨幹部骨折 — 大腿神経麻痺		
5. 脛骨骨幹部骨折 — 脛骨神経麻痺		
答	2	

問題	011	50AM090
骨折後に偽関節を生じやすいのはどれか。		
1. 手の舟状骨		
2. 鎖骨遠位部		
3. 橈骨遠位部		
4. 中手骨骨幹部		
5. 上腕骨近位部		
答	1	

解法のポイント
<p><b>偽関節を生じやすい骨折</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 手の舟状骨(月状骨)骨折</li> <li>➤ 上腕骨解剖頸骨折</li> <li>➤ 大腿骨内側骨折</li> <li>➤ 脛骨中下 1/3 骨折</li> <li>➤ 距骨骨折</li> </ul>

問題	012	43PM084
脊椎圧迫骨折の好発部位はどれか。2つ選べ。		
1. 第 5 頸椎		
2. 第 3 胸椎		
3. 第 12 胸椎		
4. 第 1 腰椎		
5. 第 5 腰椎		
答	3, 4	

解法のポイント
脊椎圧迫骨折の好発部位は、第 12 胸椎と第 1 腰椎である。

問題	013	46AM083
前方脱臼より後方脱臼の頻度が高いのはどれか。2つ選べ。		
1. 顎関節		
2. 環軸関節		
3. 肩関節		
4. 肘関節		
5. 股関節		
答	4, 5	

解法のポイント
肘関節、股関節では後方脱臼の頻度が高い。

問題	014	43PM079
反復性肩関節脱臼で誤っているのはどれか。		
1. 男性に多い。		
2. 前方脱臼が多い。		
3. 外転外旋位で不安感がある。		
4. 関節唇損傷を伴うことが多い。		
5. ドロップアームサインが陽性である。		
答	5	

解法のポイント
ドロップアームサインは腱板損傷で陽性となる。